

保険・年金 フォーカス

成長が加速する インドネシアの生保市場

—インドネシアの生命保険市場(2016)—

保険研究部 主任研究員 松岡 博司

(03)3512-1782 matsuoka@nli-research.co.jp

1—はじめに

昨年(2017年)7月18日に、米国最大の生保会社であるプルデンシャル・ファイナンシャルが、インドネシアの複合企業CTコープ傘下の生保会社、アスランシ・ジワ・メガ・インドネシア(AJMI)に49%の出資を行い、CTコープと提携して、インドネシアでの生保事業に取り組むと発表した。

インドネシアの生保市場には、わが国からも4生保グループ(日本、第一、明治安田、住友)、2損保グループ(東京海上、三井住友)が進出している。今回の米国プルデンシャルの進出により、米国、英国、ドイツ、フランス、イタリア、カナダ、日本と、主立った保険先進国の各国代表クラスの保険会社がインドネシアの生保市場に顔を揃えることとなった。

インドネシアの生保市場については、昨年も、「[インドネシアの生命保険市場—期待の生保新興市場 インドネシアの状況—\(2017年4月28日\)](#)¹⁾」として、2015年の統計データを用いたレポートを保険・年金フォーカスに掲載しているが、本年1月にインドネシアの保険監督当局であるOJK(Otoritas Jasa Keuangan=金融サービス機構)から2016年の計数数値を取りまとめた「Statistik Perasuransian 2016=Insurance Statistics 2012」が公表されたことを受け、計数数値を2016年までに洗い直した更新版として本レポートを作成した。

なおインドネシア生保市場における商品、販売、外資系生保会社等の経営等に関するもう少し詳細なレポートとして、拙稿「[成長するインドネシア生保市場と外資系生保の幸せな関係—市場活性化・高度化に貢献し覇権を達成—特色ある特約付きユニットリンク保険の販売—](#)」(2017年06月22日付基礎研レポート²⁾)もあわせてご覧いただければ幸いである。

¹ http://www.nli-research.co.jp/files/topics/55616_ext_18_0.pdf?site=nli

² http://www.nli-research.co.jp/files/topics/56016_ext_18_0.pdf?site=nli

2—成長が加速するインドネシア生保市場

1 | 「人口 1 人あたり保険料」、「GDP に対する割合」で見たインドネシア生保市場の普及度合い

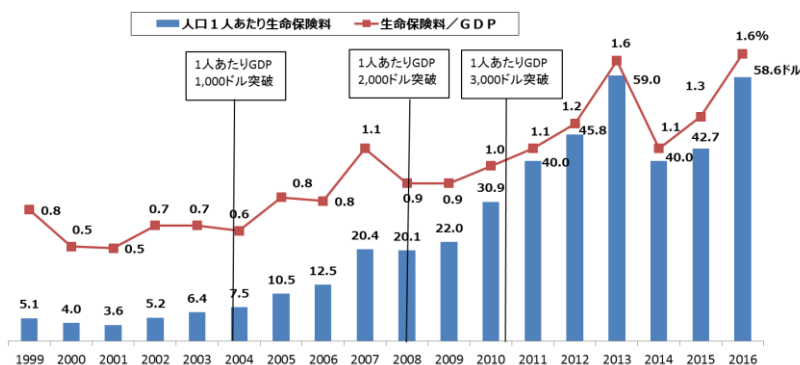
まずはスイス再保険が発表した世界の生命保険料に関するデータから、インドネシア生保業界の状況を見る。

生命保険料をドル換算したベースで、その国の生命保険料が世界全体の生命保険料の何パーセントにあたるか(世界シェア)及びそのシェアが世界第何位に位置するかの変遷を見ると、インドネシアの生保市場は、2000 年には世界シェア 0.05%、世界順位第 38 位であったものが、2015 年には、世界シェア 0.43%、世界第 29 位に上昇し、2016 年はさらに、世界シェア 0.58%、世界第 26 位へとランクアップした。絶対的なシェアはまだ小さいが、特に近年の成長ぶりは顕著である。

次に普及度合いに着目して、ドル換算ベースの「人口 1 人あたり生命保険料」と「総生命保険料の対 GDP 割合」を見る(グラフ 1) と、1999 年の「人口 1 人あたり生命保険料」5.1 ドル、「生命保険料の対 GDP 割合」0.8%が、2015 年には 42.7 ドル、1.3%へと高まり、2016 年にはさらに跳ね上がって 58.6 ドル、1.6%となった。

こちらの進展ぶりも堅調である。ただし、いまだ絶対的には低普及状態であるので、今後いっそうの成長が期待されている。また、この低い普及度合いと、この水準をスタート台にして、普及の速度が上がり始めた状態が、先進各国の生保会社を惹き付けるインドネシア生保市場の魅力となっている。

グラフ 1 「人口 1 人あたり生命保険料」と「生命保険料の対 GDP 割合」の推移 (ドルベース)



(資料) スイス再保険 sigma 各年の世界の生命保険料データ号から

2 | アセアン内でのインドネシア生命保険市場のポジション

次の表 1 は、上記各指標をアセアンの他の主要国(シンガポール、タイ、マレーシア、フィリピン、ベトナム)とインドネシアを対比したものである。

表1 アセアン主要国の生命保険市場の状況

	生命保険料 (ドル換算)	世界シェア (ドル換算生命 保険料の世界シェア)	人口1人あたり 生命保険料 (ドル換算)	生命保険料の 対GDP割合
シンガポール	17,557ドル	0.67%	2,894.5ドル	5.48%
タイ	15,131ドル	0.58%	222.0ドル	3.72%
インドネシア	15,299ドル	0.58%	58.6ドル	1.64%
マレーシア	9,189ドル	0.35%	298.3ドル	3.15%
フィリピン	3,742ドル	0.14%	36.5ドル	1.23%
ベトナム	2,053ドル	0.08%	21.8ドル	1.00%

(資料) スイス再保険 sigmaNo.3/2017 “World insurance in 2016: the China growth engine steams ahead.” より

インドネシアは6カ国の中で最大の人口と順調な経済状況を背景に、全体ボリュームとしての総生命保険料ではシンガポールに次ぐ第2位につけている。2015年にはシンガポール、タイに次ぐ第3位であったが、この1年でタイを上回る規模に達した。人口の差が大きいシンガポールに追いつくのも時間の問題と考えられる。

一方、国民各層への生命保険普及度合いを示す「人口1人あたり生命保険料」、「生命保険料の対GDP割合」ではまだまだで、第4位と出遅れている。上位3国（シンガポール、マレーシア、タイ）との差はまだまだ大きく、最近の好調な普及が続いてもこれら先行国に追いつくまでにはまだ数年はかかりそうである。

3——インドネシア生保市場の現状

ここからは、スイス再保険のデータと異なり、インドネシアの通貨であるルピアベースで作成されているOJK発表のデータを使って2016年の状態を見ていく。

ちなみに2018年4月14日現在の為替レートを使ってルピアを日本円換算すると、1兆ルピア=約78億円、1億ルピア=約78万円である。

1 | 生命保険料収入は過去最大の水準

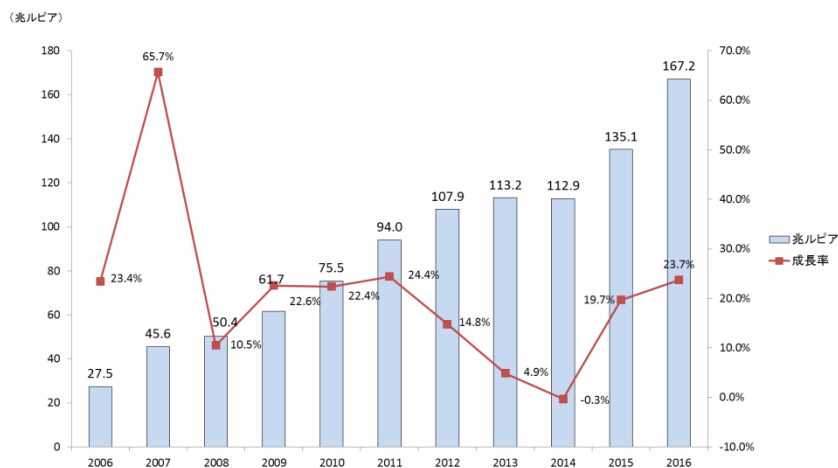
次のグラフ2は、2006年から2016年まで11年間の、インドネシア生保市場における生命保険料収入の金額を棒グラフ、その対前年の伸び率を折れ線グラフで表したものである。

インドネシアの生命保険料収入は2006年から2012年まで対前年比2桁の高い伸び率で増加し、2006年の27.5兆ルピアが2012年にはその4倍弱の107.94兆ルピアにまで拡大したが、2013年に対前年4.9%増とブレーキがかかり、2014年にはマイナス0.3%に落ち込んだ。

しかし2015年には、対前年19.7%増と再び勢いをとりもどし、2013年、2014年の低成長を挽回するとともに、一気に過去最高の135兆1300億ルピアを達成した。

この勢いは衰えることなく、2016年にはさらに加速し、23.7%増の167兆2,000億ルピア（約1兆3,042億円）に拡大した。

グラフ2 生命保険料収入の推移（ルピアベース）



(資料)OJK “STATISTIK PERASURANSIAN INDONESIA 2016” より

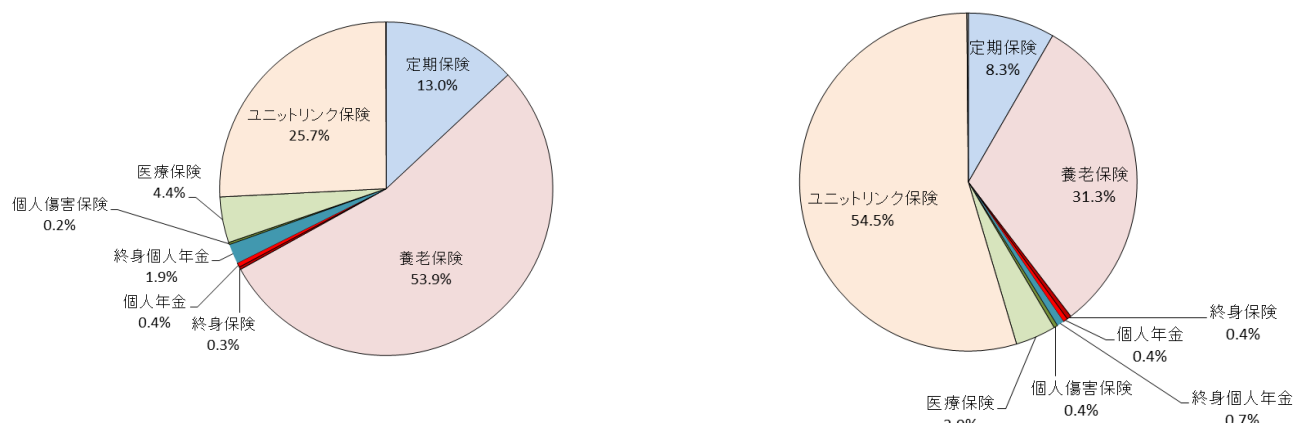
2 | 主力保険商品

インドネシア生命保険市場では個人年金等、年金商品はいまだ未発達で、販売実績はほとんどない。主力商品は、伝統的な養老保険(満期時に支払われる満期保険金と死亡があった場合に支払われる死亡保険金が同額の保険商品)と外資が持ち込んだユニットリンク(変額)保険である。これは、投資対象とする資産の価格変動やユニット価格の変動にあわせて保険積立金の額が変動する保険商品で、欧州の生保市場では主力的な商品となっている。

2016 年末現在、インドネシアに生保会社が 55 社あるが、その内 36 社がユニットリンク保険を販売している。インドネシアにおけるユニットリンク保険の特徴は、主たる契約に付加される特約として同時販売される保障がそれなりに大きな死亡保障や医療保障であることである。

グラフ3 インドネシア生命保険市場の商品(2016年)

【新契約からの初年度収入保険料の分布】 【既存契約・新契約全契約からの収入保険料の分布】



(資料)OJK “STATISTIK PERASURANSIAN INDONESIA 2016” より

(1) 初年度収入保険料で見た新契約販売の商品別構成(個人保険・団体保険総合)

グラフ 3 の左側は、2016 年にどの商品がどの程度販売されたかを、新規販売された契約からの初年度保険料の商品別構成比として表したものである。

これを見ると、養老保険が 53.9%と一番多く、次がユニットリンク保険の 25.7%で、両者をあわせた貯蓄性・投資性商品の販売割合が 79.6%を占めている。保障商品である定期保険(13.0%)、医療保険(4.4%)の比率は小さい。

(2) 既存契約・新契約全契約からの収入保険料で見た保有契約の商品別構成(個人保険・団体保険総合)

グラフ 3 の右側は、新契約だけでなく既存の契約を含む全ての契約から収入される生命保険料を、その源にある商品別に分類したグラフである。

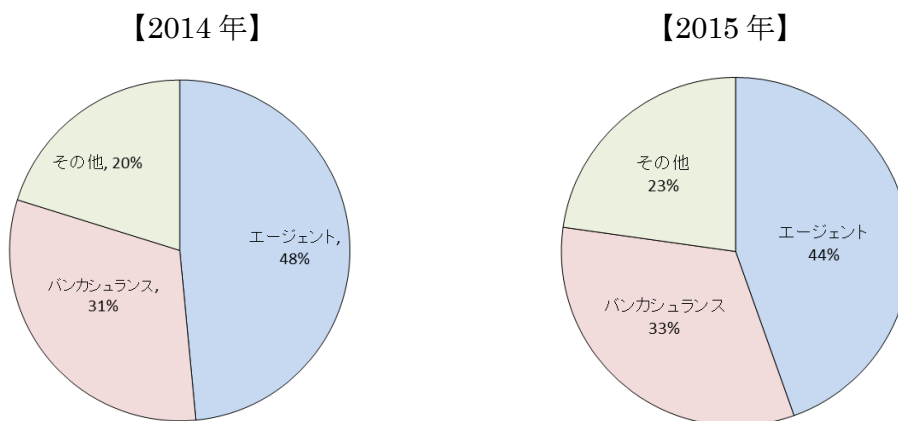
こちらのグラフでは、ユニットリンク保険が過半の 54.5%を占め、養老保険が 31.3%で続く。両者をあわせた投資性・貯蓄性商品の比率は 85.8%にもなる。保障商品である定期保険 (8.3%)、医療保険 (3.9%) は、初年度収入保険料におけるよりもさらに存在感が小さくなる。

3 | 販売チャネル

今回 OJK が発表した統計資料には販売チャネルに関する統計が含まれていない。グラフ 4 は 2017 年 4 月の前回レポートとは情報源を変え、ミリマン社の“Indonesia Life Insurance Newsletter, June 2016”に掲載されていたインドネシア生命保険協会 (AAJI) 発表の 2014 年と 2015 年の統計データを使用したグラフに切り替えて掲載している。

情報源を異にするので若干、前回の数値とは食い違いがあるが、インドネシアにおける最大の生保販売チャネルがエージェントであり、それに次ぐチャネルがバンカシュランスであることは変わらない。2014 年から 2015 年にかけて、バンカシュランスのシェアが増えつつある。

グラフ 4 インドネシア生保市場における販売チャネルシェアの推移 (保険料による)



(資料) ミリマン “Indonesia Life Insurance Newsletter, June 2016” より

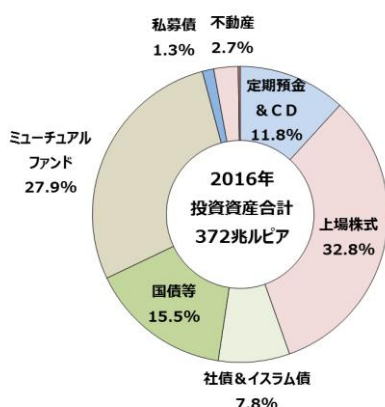
4 | 資産運用

投資資産(総資産から非投資資産を除いたもの)の運用状況がグラフ 5 である。

定期預金・CD (11.8%) や国債等 (15.5%) など、安全性の高い資産への投資が約 3 割で、上場株式(32.8%)、ミューチュアルファンド (27.9%) 等のリスク性の運用対象への投資割合が 6 割を超えている。

リスク性資産の構成比が高い理由は、販売商品中のユニットリンク保険の割合が大きくなったことと考えられる。

グラフ 5 インドネシア生保会社の投資資産の構成(2016 年末)



(資料)OJK “STATISTIK PERASURANSIAN INDONESIA 2016” より

4—市場参入の状況 会社数の推移

1 | 生命保険会社

2016 年末現在、インドネシアには 55 の登録生命保険会社がある。内訳は、内国会社が 31 社、外資との合弁会社が 24 社である。外資合弁会社数の 24 社は過去最高である。

表 2 インドネシアの生命保険会社数の推移

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
生命保険会社	51	46	45	46	46	45	47	49	50	55	55
内国会社	35	29	27	28	29	26	28	30	31	33	31
外資合弁会社	16	17	18	18	17	19	19	19	19	22	24

(資料)OJK “STATISTIK PERASURANSIAN INDONESIA 2016” より

収入保険料で計算した 2016 年のシェア (表 3) を見ると、内国民間会社のシェアが 39.4%、外資合弁会社のシェアが 60.6%で、市場の 6 割を外資合弁会社が押さえている。

また収入保険料上位 20 社を見ると、上位に外資合弁会社が数多くランクインしている。

なお、表中第1位のプルデンシャルは英国に本拠を有するプルデンシャル plc グループの生保会社であり、本レポート冒頭に記した米国のプルデンシャルファイナンシャルとは関係のない会社である。

表3 収入保険料上位20社（2016年）

順位	会社名	会社種別	収入保険料	シェア
1	プルデンシャル	外資合併	247,551	16.7%
2	ジフスラヤ	内国	165,133	11.1%
3	サイマス	内国	130,333	8.8%
4	アリアンツ	外資合併	110,550	7.5%
5	インドライフベンションタマ	内国	90,825	6.1%
6	A I Aファイナンシャル	外資合併	89,178	6.0%
7	アクサマンディリファイナンシャル	外資合併	79,617	5.4%
8	マニユライフ	外資合併	72,523	4.9%
9	アディサラナワナルタ	内国	57,741	3.9%
10	シナルマスMSIG	外資合併	56,290	3.8%
11	AJB プミプトラ 1912	内国	40,706	2.7%
12	BNIライフ	外資合併	34,433	2.3%
13	アストラAvivaライフ	外資合併	31,433	2.1%
14	パニン第一ライフ	外資合併	31,048	2.1%
15	BRIライフ	内国	26,575	1.8%
16	セクイスライフ	外資合併	25,852	1.7%
17	ジェネラリ	外資合併	25,394	1.7%
18	キャピタルライフ	内国	21,967	1.5%
19	コモンウェルライフ	外資合併	18,165	1.2%
20	サンライフファイナンシャル	外資合併	14,020	0.9%
	うち内国会社（31社）小計		584,103	39.4%
	うち外資合併会社（24社）小計		896,965	60.6%
	その他ともインドネシア（55社）合計		1,481,068	100.0%

（資料）OJK “STATISTIK PERASURANSIAN INDONESIA 2016” より

2 | イスラム保険（シャリア生命保険またはタカフル生命保険）の状況

インドネシアは人口の約9割がイスラム教徒という宗教的な側面を持つ国である。そしてイスラム教徒の世界には、一般的な生保事業とは別途のイスラムの教義に即したシャリア生命保険（世界的にはタカフル生命保険と呼ばれることが多い）がある。インドネシアでもシャリア生命保険の提供がなされている。

表4はインドネシアでシャリア生命保険事業を営む会社数の推移である。2016年末現在、シャリア生命保険専門会社が6社、シャリア生命保険を提供するビジネスユニットを持つ生保会社が21社ある。このいずれの社数も過去最高である。

表4 シャリア生命保険を提供する会社数の推移

	2011	2012	2013	2014	2015	2016
シャリア生命保険会社	3	3	3	3	5	6
生命保険会社のシャリア保険ユニット	17	17	17	18	19	21

（資料）OJK “STATISTIK PERASURANSIAN INDONESIA 2016” より

表 5 はシャリア生命保険事業の業績数値と一般の生命保険事業の業績数値を対比したものである。シャリア生命保険事業の規模が一般の生命保険事業の何%にあたるかを見ると、2016 年では、保険料で 5.7%、総資産で 6.0%となっている。保険料ベースでは 2014 年以降、シェアが下がってきているが、総資産ベースでは反対にシェアが上昇してきている。

表 5 シャリア生保事業と一般の生保事業の規模比較

	グロス保険料(兆ルピア)			総資産(兆ルピア)		
	2014	2015	2016	2014	2015	2016
全生命保険	113	135	167	368	378	451
シャリア生命保険	8	8	9	18	22	27
シャリア生命保険/全生命保険	7.4%	6.1%	5.7%	4.9%	5.7%	6.0%

(資料)OJK “STATISTIK PERASURANSIAN INDONESIA 2016” より

今後、インドネシア経済の発展とともに国民の間に生命保険へのニーズが高まることが予想されるが、その際には、イスラム教徒の一定割合の人々がイスラムの教義に則ったシャリア生命保険に加入することを選択すると考えられる。そのためシャリア生命保険事業の将来性は明るいと思われる。これが全体としてのインドネシア生命保険市場の魅力を高めることともなっている。シャリア生命保険事業の発展を見越して多くの生命保険会社が取組を開始した。

OJK はビジネスユニットの一つとしてシャリア生命保険事業を行っている生命保険会社に対し、シャリア生命保険部門を分社化することを求めている。これに応じ 2016 年には 1 つのシャリア生命保険専門会社が発足した。

5—さいごに

以上、主に昨年のレポートの統計数値を 2016 年に更新する形で、インドネシア生命保険市場の状況を見てきた。

冒頭に記したプルデンシャルファイナンシャルのような、有力生保会社の海外からの参入はこれからも続くだろう。OJK の要人は、インドネシア生保業界にはまだ新規参入社を受け入れる余地があると語っている。

2017 年中には、「1 つのグループは生保会社を 1 つにすべし」という「シングルプレゼンスルール」を遵守するために、アクサグループが、アクサ生命とアクサファイナンシャル生命を合併させた。

2014 年に施行された新保険業法に基づく規制への本格対応が求められる時期を迎えているため、インドネシア生保市場におけるこうした生保会社の出資関係の調整はこれからもしばらく続きそうである。

インドネシア生保市場の動向については、今後とも継続的、定期的にフォローしていくこととしたい。